

開催報告



トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会 第11回 天王川自然再生ワーキンググループ

開催日：2016年11月10日(木)18:30~20:30

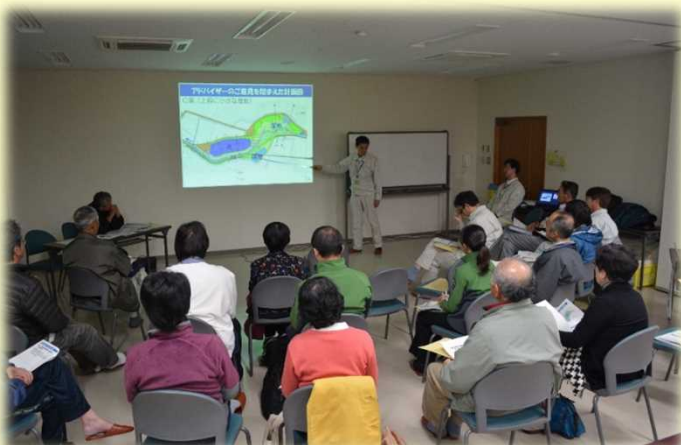
場所：トキのむら元気館 会議室

参加者：WGメンバー13名、傍聴4名

トキのえさ場となる湿地への水の供給の仕方などについて議論を行いました。

今回は、自然再生後、私たちがトキのえさ場となることを期待している天王川右岸側湿地への水の供給方法などについて議論を行いました。

将来の維持管理も見据えた活発な議論が行われ、参加者の皆さんのお考えが明確に示されるものとなりました。



WGの様子

①湿地は干上がらないのか？

伊利川は、晴れの日でも毎分数十リットルの水が流れていて、湿地が干上がらない十分な水量を確保できることが分かりました。

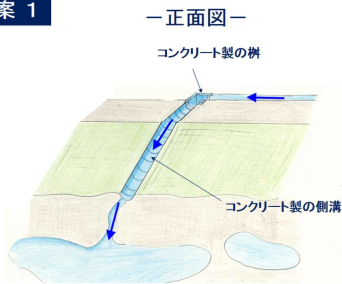


26

WG資料

③上段水路から湿地への水の導き方は？

案1



32

WG資料



自然再生の計画図

事務局からの主な説明内容

- 上流側を川の営力に任せた水辺とすることに関し、一部のアドバイザーから「加茂湖への濁水対策が不確実にならないようにすること」とのご意見をいただいたことを報告
- 上流右岸側の湿地への水の供給は、農業排水に加え、伊利川の水を導くことができることになったことを報告
- 掘削土の表土数十センチ分を保存しておき、掘削後の表土として転用することで、もともこの地域にあった植生を再現することとしたいと説明
- 上流右岸側の湿地への水の供給方法について4つの案をたたき台として説明
- 下流側で始まった試験施工についての説明

意見交換会での主なご意見

- 湿地を保つために伊利川からの水を確保できたことは良いとして、増水時には逆に水が大量に流れ込むのではないか。
- 湿地へ水を供給する水路は水を供給するだけと割り切るのか、それとも生物が遡上するものと想定するのかによって使う材料も変わるのではないか。例えば、半割のコルゲート管などは引っかけりもあり遡上する生物にとって良いかもしれない。
- 右岸上段の湿地は景観的にはない方が良い。
- 右岸上段の湿地が左岸の湿地とほぼ同じ役割を担うのであれば無理につくる必要はないのではないか。
- 法面にいろいろなものが入ると草刈りなどの維持管理がしにくくなるので、湿地への水の供給は暗渠とした方が良いと思う。
- 開渠とする場合は、自走式の草刈り機などの導入も考えたときに一部に蓋をつけ、行き来ができるようにしてほしい。

【今後の予定】

- 議論の結果を計画案に反映するとともに、次回は先進地視察の報告を通じて維持管理のあり方を議論します。

天王川自然再生ワーキンググループの構成メンバー

- ◆ 地元集落： 潟上集落、正明寺集落、田野沢集落
- ◆ 関係団体： 佐渡生きもの語り研究所、トキどき応援団、潟上水辺の会、加茂湖漁業協同組合、佐渡島加茂湖水系再生研究所、生樺の自然を守る会
- ◆ 学校関係： 伝統文化と環境福祉の専門学校、佐渡市立行谷小学校
- ◆ 行政機関： 環境省佐渡自然保護官事務所
- ◇ 事務局： 佐渡地域振興局地域整備部、佐渡市役所建設課、佐渡市役所農林水産課

問い合わせ先 新潟県 佐渡地域振興局地域整備部 担当) 計画調整課 水倉、藤澤

TEL : 0259-74-4040 FAX : 0259-74-2048 Email : fujisawa.masamichi@pref.niigata.lg.jp